

2026 年度 茨城キリスト教大学大学院

生活科学研究科 心理学専攻

I 期 入学試験問題

【専門科目】

試験時間 13:45～14:45 (60 分)

諸注意

1. 試験監督者から「開始」の指示があるまで、この冊子をめくってはけません。
2. 解答を始める前に、必ず解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 試験内容に関する質問は受け付けません。問題用紙はこの表紙を除いて 2 枚、下書き用紙は 1 枚、解答用紙は 1 枚です。印刷上の不備があった場合などは手をあげて監督者に知らせてください。
4. 試験中に気分が悪くなったときなどは、手をあげて監督者に知らせて下さい。
5. 試験終了後、問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

問1. 以下の問題に解答せよ。

① 臨床心理学の歴史関連する記述について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 1879年、Wundt, W.がライプチヒ大学に実験心理学研究所を創設したことが近代心理学の発端といわれている。
- b) 1895、Freud, S.と Breuer, J. が共同研究による『ヒステリー研究』を出版したことが、その後の精神分析学の発展の基礎となった。
- c) 1896年、臨床心理学という用語は、心理学者である Witmer, L.がペンシルベニア大学に世界で最初の心理クリニックを開設した時に初めて用いられた。
- d) 1942年、Rogers, C.R.が『Counseling and Psychotherapy』において非指示的カウンセリングを提唱した。
- e) 1945年、APA（アメリカ心理学会）が臨床心理学の専門家を養成する基本モデルとして、Bio-Psycho-Social モデルを提唱した。

② 自我の防衛機制について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 知性化とは、特定の欲動や感情を直接意識化する代わりに、論理的な思考過程や知識の獲得や伝達に置き換える機制である。
- b) 抑圧とは、自我の受け入れがたい経験をさしあさっての意識から排除しようとする機制である。
- c) 反動形成とは、自我にとって受け入れがたい本能衝動の意識化を防ぐために、その衝動と反対方向の態度を過度に強調する機制である。
- d) 打ち消しとは、過去の思考・行為に伴う罪悪感や恥辱の感情を、それとは反対の意味をもつ思考ないしは行動によって消そうとする機制である。
- e) 昇華とは、本来の目標を放棄し、より社会的な価値や道徳に適合する目標に向け換えられる機制である。

③ クライアント中心療法について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) クライアント中心療法の第一の発展段階は“非指示的療法”の時期であり、クライアントのパーソナリティ変化の基本的要因として、自己概念と現象的場の一致を発展させることを重視した。
- b) クライアント中心療法の第三の発展段階は“体験過程療法”の時期であり、Rogers, C.R.の共同研究者である Gendlin, E.T.が“フォーカシング”と呼ばれる方法と実践に発展させた。
- c) クライアント中心療法の間観の一つに“自己現実の傾向”があるが、これは自己概念の発達に伴って、有機体の経験のうち自己というものに象徴される部分を現実化するという形で現れてくるとされた。

- d) “治療的パーソナリティ変化の必要十分条件”はセラピーの過程が起こるための諸条件が備わっていることが必要であると言われているが、そのひとつに“無条件の肯定的な配慮”がある。
- e) クライアント中心療法の創始者である Rogers, C.R. は、『カウンセリングと心理療法』(*Counseling and Psychotherapy, 1942*) で、それまで別分野と考えられていたカウンセリングと心理療法は基本的に同一のものであるとした。

④ 心理療法に関連する記述について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 分析心理学は、Jung, C.G. が理論化した無意識の心理学体系の総称である。
- b) 行動療法は、Watson, J.B. によって「人間の行動や情動を現在の学習理論の諸法則に従って改善する試み」として創始された。
- c) ロゴセラピーは、Frankl, V.E. によって創始された心理療法であり、実存分析とも呼ばれる。
- d) ゲシュタルト療法は、Perls, F. を中心に提唱された心理療法であり、統合を志向する人格への変容を目的としている。
- e) 内観療法は、吉本伊信の創始した心理療法であり、集中内観と日常内観の二つがある。

⑤ 精神疾患とその治療について、正しいものを一つ選びなさい。

- a) 妄想は、知覚の障害であり、知覚すべき対象がないのに「何か」を知覚するものである。
- b) 強迫行為は、繰り返される持続的な思考、衝動、またはイメージで、それは障害中の一時期には侵入的で不適切なものと体験されているものである。
- c) 認知症の症状は、脳の器質的な変化によって生じる認知機能障害である中核症状として、幻覚・妄想、意欲・関心の低下、不安・焦燥などがみられる。
- d) 強迫症の概念が歴史上最初に用いられたのは、紀元前 5 世紀のヒポクラテスのメラニコリアである。
- e) 統合失調症の症状として思考形式の障害があり、「支離滅裂」や「言葉のサラダ」がみられる。

⑥ 心理アセスメントについて、正しいものを一つ選びなさい。

- a) 心理アセスメントは、被検査の役に立つという見通しがなくても、臨床心理学的支援を行うにあたり、クライアントの特徴や状況などの情報を収集するために必要とされている。
- b) SCT (文章完成法) は、もともとと言語連想検査から派生してきたと考えられているが、Ebbinghaus, H. によって最初に心理テストとして用いられた。

- c) HTP 法とは、Koch, K.によって創始された描画テストで、「家、木、人」を手描きするものである。
- d) モーゼレイ性格検査 (MPI) は、Jung, C.G.のタイプ論「内向性-外向性」をもとにして作られたパーソナリティ質問紙である。
- e) P-F スタディは、Rosenzweig, S.が考案した質問紙法の一つである。

⑦ 心理臨床における倫理について、正しいものを一つ選びなさい。

- a) 自分の能力で援助しきれない症例でも、誠意をもって取り組むことが心理専門職には求められている。
- b) 心理面接を継続しているクライアントと面接室外でたまたま会った際、その時にクライアントが困っている相談を短時間であれば対応することは倫理上の許容範囲である。
- c) クライアントのケア等に直接かかわっている専門家などがケース・カンファレンスで話し合う場合においても、本人の承諾なしに行われた場合は守秘義務違反となる。
- d) インフォームド・コンセントは接近権、自己決定権、還元義務のいずれか一つでも不十分であれば成立しない。
- e) 治療契約の最終的な判断はクライアント自身にゆだねられるが、治療契約を結ばずに心理面接を始めることは例外なく倫理違反となる。

⑧ 心理学の記述について、正しいものを一つ選びなさい。

- a) ある刺激に条件づけられた反応が、他の刺激に対しても生じることを分化という。
- b) 強化によって、条件刺激と条件反応の連合を強めるタイプの条件づけは、古典的条件づけと呼ばれる。
- c) 集団で協同作業を行うとき、一人当たりが投与する作業への遂行量が、人数が多くなるほど低下する現象を社会的抑制という。
- d) 集団極化において、集団討議後に参加者の選択がよりリスクの高い方へ変化することをコーシャス・シフトという。
- e) 人間は過去の経験を構造化した認知的枠組みに基づいて新しい事柄を認識したり記憶したりするが、これはスキーマの働きによるものである。

問 2. 以下の問いに答えなさい。

心理面接におけるクライアントの沈黙の解釈と対応について 400 字程度で述べよ。

2026 年度 茨城キリスト教大学大学院

生活科学研究科 心理学専攻

I 期入学試験

解答および解説

問 1.

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
e	b	a	b	e	b	d	e

問 2.

1. 解説

心理的支援の場として代表的ともいえる面接場面における沈黙をめぐる解釈と対応を問うものです。目安となる 400 字前後を目標に記述できるとよいでしょう。後に解答例を示しました。参考にしてください。

解答にあたっては、量的および質的観点のふたつの視点をもつとよいでしょう。量的観点には、先に示したような一定量の記述が伴うことに加えて、誤字脱字や口語表現がないこと等が重視されます。また専門用語については、特に表記に誤りのないことが求められます。なお著しい悪筆や解読困難な解答は、採点の対象にならないことがあります。丁寧な記述を心がけましょう。一方、質的観点としては、設問に対して専門的学びを積極的に活用して解答することが求められます。問われている内容に応じて、次のような視点をもって解答できるとよいでしょう。

- (1) 論理的整合性（段落構成の適切さ 論旨の明確さと一貫性等）
- (2) 専門的整合性（専門的知識と技術を活用し、問いに対して心理的支援の専門性の観点から適切な解答を導くことができる）
- (3) 内省的態度（支援者として要支援者の権利をまもり、その主体性を尊重した支援を実践するために自己覚知や自己研鑽が重要であることへの言及や視座がみられる）

さらに本学では、建学の理念に基づき、次に示すような点を重視しています。

- (1) 公正性（人間に対す対等性と人権尊重）
- (2) 多様性（人間に対する寛容性 差別的排他的態度がみられないこと）
- (3) ボランティア（他者、社会と積極的、主体的にかかわる態度）

これらを踏まえ、解答においても要支援者の権利性を遵守する態度とともに、現代社会における心理社会的課題の達成にむけて生涯学習を旨として自己覚知と研鑽に主体的に臨む態度を示すことができるとよいでしょう。

2. 解答例

心理面接におけるクライアントの沈黙には、重要な意味がある。心理面接においてカウンセラーは、受容と傾聴、共感を基本姿勢としたうえで、沈黙をクライアントからの大切なメッセージとして捉え、それを回避することなく、クライアントの理解と支援につなげたい。具体的には、沈黙を避ける、無理に破る、取り繕う等の対応は慎み、クライアントの沈黙を含む表出の機会と在り方を尊重し、それらを見守るなかで、沈黙の背景にある意味やメッセージをともに考え対処する対応が望ましい。なお沈黙の解釈には、抵抗や防衛、クライアントの葛藤から生じる陰性転移の可能性も含まれている。カウンセラーには、クライアントの沈黙の背景にあるさまざまな意味を捉え、それを踏まえた柔軟な対応が求められる。そのためには、クライアントの状態やその場において生じている状況をノンバーバルな側面も含め丁寧に観察することが重要である。また、カウンセラー自身がスーパービジョンなどを通じて自らの状況や課題について自己覚知を深めることも有効である。